

## 平成 24 年度第 2 回都道府県地域がん診療連携拠点病院および東京都認定がん診療病院研修会(放射線技師等)の報告

がん研究会有明病院 放射線治療部 佐藤智春

- 開催日時：平成 25 年 3 月 2 日（土） 9:50～16:40
- 開催場所：がん研究会研究所 1 階 吉田講堂
- テーマ：「IMRT の照合方法と IGRT」
- 目的：IMRT の照合方法と IGRT の手法および QA に関する基礎的な技術を習得する
- 参加者： 35 施設 144 名（拠点病院以外の 4 施設 15 名を含む）
- プログラム：

9:50～10:00 開会の挨拶

10:00～11:00 「基礎講座」 外部放射線治療装置の線量的 Q A

公益財団法人がん研究会有明病院 中島 大

11:00～11:50 「ランチョンセミナー」 Symmetry による呼吸性移動対策

エレクタ株式会社 岩井 良夫

12:40～13:50 エレクタ社治療装置における IMRT の照合方法と IGRT

大阪市立大学医学部附属病院 辰己 大作

14:00～15:10 バリアン社治療装置における IMRT の照合方法と IGRT

大阪府立母子総合医療センター 谷 正司

15:20～16:30 シーメンス社治療装置における IMRT の照合方法と IGRT

国立がん研究センター東病院 有路 貴樹

16:30～16:40 閉会の挨拶

- アンケートの結果：回収率 87%（125 人／144 人）

1. 放射線技師の経験年数は 10 年以上 58%、10 年未満 42%となり、前回（各々 51%と 49%）よりも若い層の参加が減って、前々回（各々 60%と 40%）と同様に中堅層以上の参加者が多かった。また 5 年未満の新人が 20%となり、前回(25%)よりも新人の参加者が減少した。
2. 放射線治療の経験年数は、3 年未満の初心者が 34%、3～10 年の中堅が 42%、10 年以上のベテランは 24%であり、前回（各々 36%、42%、22%）と比べて著しい変化はなかったが、治療経験 5 年以上 10 年未満の受講生が 30%を占め、前回(23%)よりも多かった。

3. 放射線治療関係の学会入会率は、日本放射線腫瘍学会 46%、日本放射線技術学会治療分科会 56%となり、前回（腫瘍学会 46%、分科会 51%）と比べて治療分科会の入会率が上がった。分科会の入会率は年々増加しており、治療専門技師への関心が高まったことが考えられる。また、日本放射線技術学会の入会率は 81%と前回(73)%よりも増加しており、新人の加入が入会率を増加させたものと思われる。本研修会の医学物理士認定のカウント取得について検討するために医学物理学会への入会について調査したが、入会率は 35%であった。前回のアンケート結果である医学物理士取得者 14%（放射線治療専門技師 26%）、未取得者のうち取得希望者が 56%（放射線治療専門技師 81%）であることを合わせて考えると、本研修会の医学物理士認定のカウント取得申請は困難であると思われる。
4. 使用している治療装置のメーカーは、バリアンが 55%と半数を超え世界的に標準治療装置であるメーカーが国内においても浸透した印象を受けた。そして、エレクタ 23%、シーメンス 17%と続いており、国産メーカーですでに製造していない三菱が、がん拠点施設において 5%稼働している。
5. 各講義内容について、ほとんどの受講生が理解できた（講義順に 96%, 96%, 94%, 94%,90%）と答えており、本研修会の目的は達成できたと考える。

➤ 受講生の意見と要望（19 件）

1. 講師の方たちには自施設の QA の状況をもっと聴きたかった
2. 大変勉強になった（4 件）
3. 土曜日でなく日曜日だと参加しやすい
4. 感謝の言葉（5 件）
5. IGRT について様々な知見を得ることができた
6. IGRT 手法における各装置間の相違がわかり良い企画であった
7. 放射線治療に携わる技師のトレーニング方法やカリキュラムに関する情報提供がほしい
8. 放射線治療における部門運営について学びたい
9. 患者観察について皆さんの意見・実例を聞きたい
10. 臨床医の意見も聞きたい
11. CBCT の被曝線量の評価法をより詳細に聴きたかった
12. SBRT の VMAT について計画、検証、照射に至るまでの話が聞きたい

以上